

# 和歌山下津港港湾計画資料

－ 軽易な変更 －

平成23年2月

和歌山下津港港湾管理者  
和 歌 山 県

## 目 次

1	変更理由	1
2	施設計画に関する資料	2
2-1	津波災害を防止するために必要な主要施設	2
3	環境保全に関する検討	6
4	関係機関との調整	6

## 1 変更理由

東南海・南海地震等による津波災害から背後地域を防護することを目的に、海岸保全施設整備事業により和歌浦・海南港区に設置される津波防波堤について、港湾及び港湾に隣接する地域に重要な関わりを有するため、港湾及び港湾に隣接する地域の保全計画に位置付ける。

## 2 施設計画に関する資料

### 2-1 津波災害を防止するために必要な主要施設の計画

#### (1) 必要性

当地域の津波浸水想定区域内には、行政・防災機関や主要交通網が集積しており、人的被害はもとより、発災後の危機管理体制や緊急輸送ネットワークの確保に大きな影響を及ぼすとともに、沿岸部には鉄鋼、電力等の多様な産業の集積がみられ、復興の長期化わが国の経済活動への影響も懸念される。津波による被害は、浸水戸数 5,224 戸、被害額は約 5,000 億円と想定され、和歌山県下最大の被害が出ると予想されている。

しかし、現地においては、護岸の天端高不足、老朽化及び液状化による沈下の可能性があり、また背後地の利用状況を考えると、現在の防護施設(護岸)の機能不足は否めず新たな防護機能の整備が必要である。

このため、海南地区の防護のため既設護岸や防波堤改良、水門、津波防波堤及び可動式防波堤の新設を行うこととなった。これらの施設は海岸保全施設であり、海岸保全基本計画に基づくものである。



図 1-1 和歌山下津港現況および浸水予想図

一方、和歌浦・海南港区の海南外港航路は、当地区の主要航路であり航路幅 200m、水深 13.0m でプレジャーボートなども含め年間相当数の船舶が通航する。今回設置される可動式

防波堤は通常時には海底に格納されており、通常の港湾活動になんら影響を与えるものではない。しかし津波来襲の危険が迫ると、圧縮空気の送気により鋼管がせり上がり航路を塞ぎ背後の地域及び港湾施設を防護する。

(2) 規模及び配置

津波災害を防止するために必要な主要施設の計画の規模及び配置は次のとおりである。

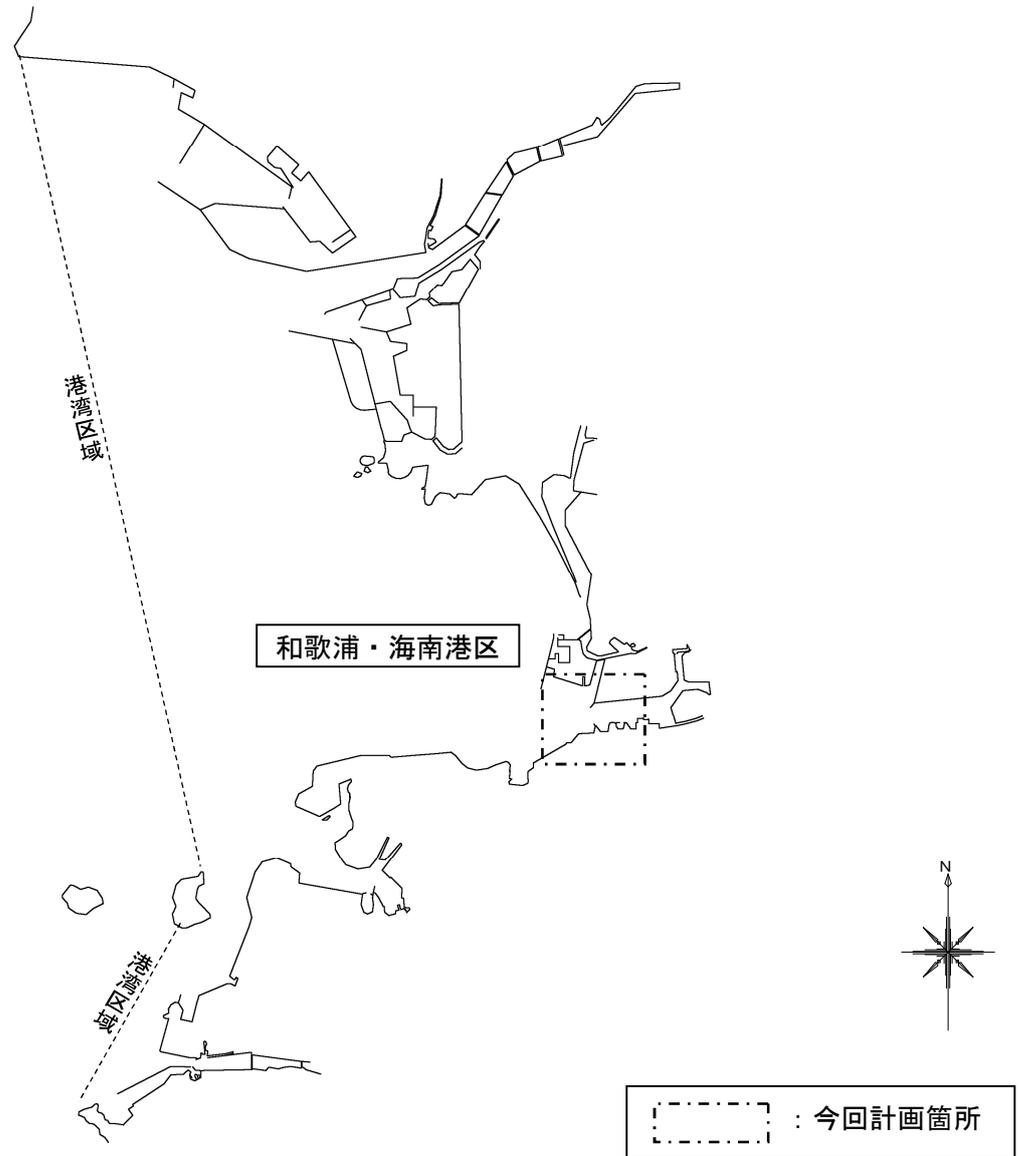


図 2 - 1 津波災害を防止するために必要な主要施設の計画位置図

表 2 - 1 津波災害を防止するために必要な主要施設の概要

港区	名称	延長	構造形式	備考
和歌浦・海南 港区	船尾津波防波堤	50m	直立堤（鋼管矢板）	新規計画
	冷水津波防波堤	44m	直立堤（鋼管矢板）	新規計画
	海南外港航路 可動式防波堤	230m	直立浮上式	新規計画

※可動式防波堤の天端は、東海・東南海・南海地震が同時発生した場合の想定津波高さに対応できるように、+7.5mとする。

①和歌浦・海南港区 船尾・冷水津波防波堤

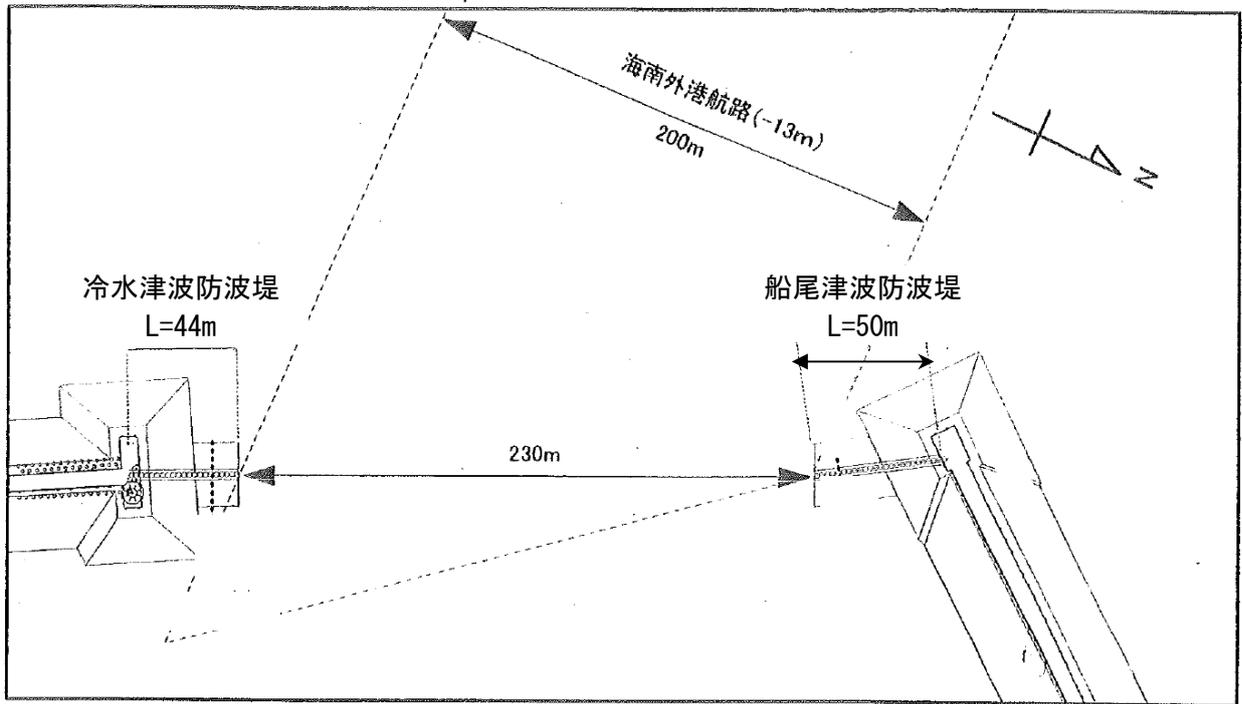


图 2 - 2 施設配置図 (船尾・冷水地区)

②和歌浦・海南港区 海南外港航路可動式防波堤

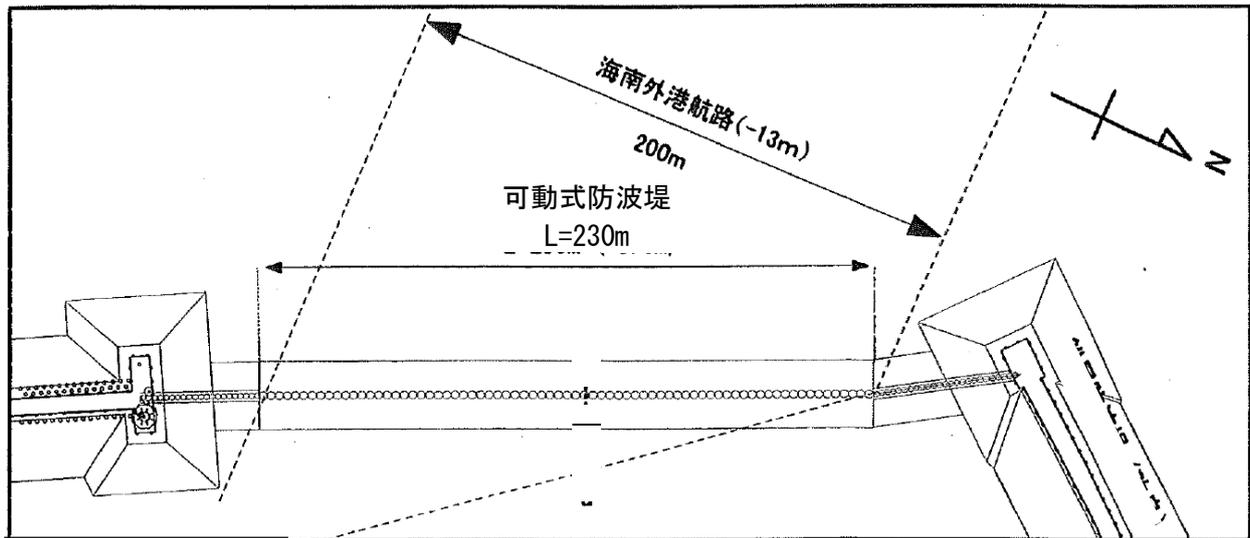


图 2 - 3 施設配置図 (海南外港航路)

### (3) 航路への影響

通常時：可動式防波堤は海底下に格納されており、海南外港航路の水深（-13.0m）及び幅（200m）は確保される。

異常時：地震発生時には、津波警報発令後、防波堤の浮上動作を開始し、浮上後は航路が閉鎖された状態になる。なお航路閉鎖前後の港湾の利用に係る運用については安全確保に十分配慮した上で今後検討する予定である。

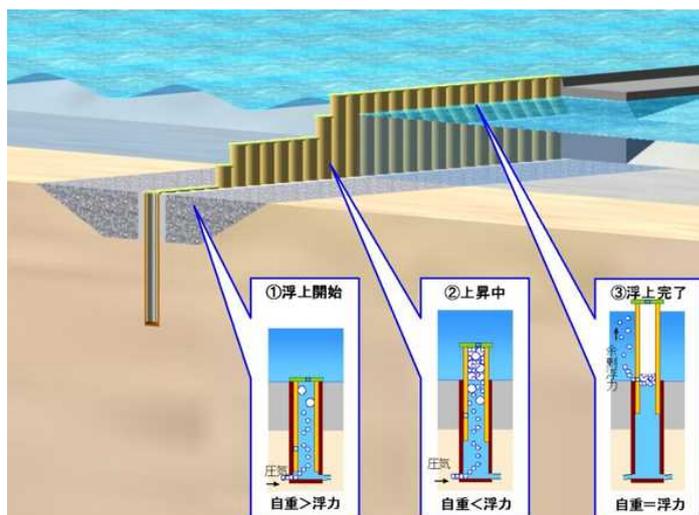


図3-1 可動式防波堤の構造

### 3 環境保全に関する検討

今回の計画は、地形変化が少なく新たに生じる環境負荷もほとんどないため、大気質・生態系・景観等への影響は軽微なものとする。また、潮流・水質及び底質に与える影響も軽微であるため、周辺漁業に与える影響は軽微であるとする。

以上のことから、今回の計画は、環境に与える影響は軽微であるとする。

### 4 関係機関との調整

別添資料参照

## 和歌山県地方港湾審議会委員名簿

平成23年2月現在  
(敬称略、順不同)

委員の種類	氏名	職名
第1号	黒田 勝彦	神戸市立工業高等専門学校 校長・神戸大学名誉教授
	濱田 學昭	和歌山大学特任教授
	辻本 勝久	和歌山大学経済学部准教授
	藤澤 祥子	和歌山信愛女子短期大学非常勤講師
	谷 奈々	和歌山社会経済研究所主任研究員
	千森 督子	和歌山信愛女子短期大学生活文化学科教授
	小池 信昭	和歌山工業高等専門学校環境都市工学科准教授
	和田 聡子	大阪学院大学経済学部准教授
第2号	小林 道明	和歌山県海運組合理事長
	西村 雅臣	和歌山港運協会会長
	永野 文規	和歌山商工会議所港湾活性化委員長
	横山 直彦	全日本海員組合大阪支部長
	大場 朝男	和歌山下津水先区水先人会会長
	吉田 擴	御坊商工会議所会頭
	中川 藤吉	日高木材協同組合理事長
	三宅 貴久	和歌山県港湾協会副会長
	岩田 幸男	和歌山県漁業協同組合連合会代表理事会長
	長井 一朗	和歌山港湾福利厚生協会会長
第3号	大橋 建一	和歌山市長
	神出 政巳	海南市長
	望月 良男	有田市長
	柏木 征夫	御坊市長
	入江 勉	美浜町長
第4号	谷 洋一	和歌山県議会議員
	泉 正徳	和歌山県議会議員
第5号	原 雅彦	大阪税関長
	原 喜信	近畿運輸局長
	岩渕 洋	田辺海上保安部長
	今井 丈二	和歌山下津港長
	上総 周平	近畿地方整備局長
第6号	下 宏	和歌山県副知事